

**国 営 讚 岐 ま ん の う 公 園
整備・管理運営プログラム（案）**

平成25年2月

国土交通省 四国地方整備局

国営讃岐まんのう公園整備・管理運営プログラム<案>

目次

1. 全体計画及び開園状況	1
1. 1. 全体計画	1
1. 2. 開園状況、経緯	3
1. 3. 主な供用施設	3
1. 4. 利用の状況	4
2. 平成 28 年度までの整備及び管理運営の方針等	5
2. 1. 平成 28 年度までの整備・管理運営の重点事項	5
(1) 基本方針	5
(2) 整備・管理運営の重点事項	5
2. 2. 整備方針	6
(1) 自然活用ゾーンの整備	6
(2) 整備スケジュール	7
(3) 特に配慮し、積極的に広報展開を図るべき事項	7
2. 3. 管理運営方針	7
(1) まんのう公園ならではの魅力の増進	7
(2) 四国らしい里山の保全・創出	7
(3) 効率的な施設更新	7
(4) 広域防災拠点機能の強化	7
2. 4. 事業効果	8
(1) 自然・里山環境とのふれあいの場を提供	8
(2) 地域固有の環境・文化の維持と保全	8
(3) 入園者数の増加	8
(4) 地域活性化	8

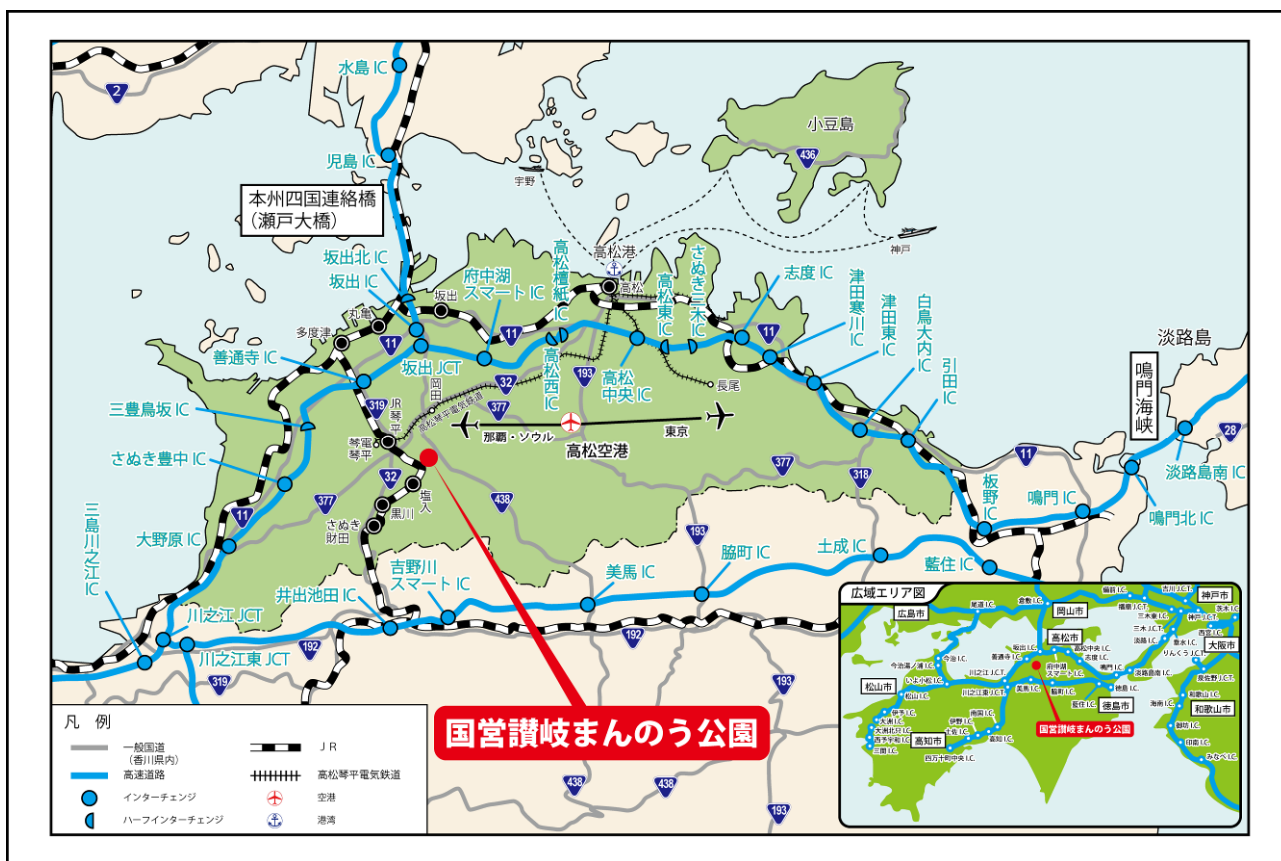
1. 全体計画及び開園状況

1. 1. 全体計画

□概要

国営讃岐まんのう公園は、香川県まんのう町に位置し、我が国最大級のため池である「満濃池」に接する、四国で唯一の国営公園です。

緑豊かな山並みと広々とした満濃池の水面を望むなだらかな丘陵地に位置する本公園は、空海が一つの偉業として後世に遺した満濃池とその周辺の豊かな自然、そして空海を生んだ四国の文化的土壌を活かし、基本テーマを「人間との語り、自然・宇宙とのふれあい」としています。



【公園の位置】

□全体計画面積；350ha

□種別；イ号国営公園

□事業採択年度；昭和 59 年度

□工事着手年度；昭和 62 年度

□供用開始年度；平成 10 年度

□供用面積；198ha[平成 24 年 3 月末現在]



【公園のゾーニング及び供用区域と主な供用施設】

1. 2. 開園状況、経緯

- 昭和 62（1987）年 10 月：工事着手
- 平成 10（1998）年 4 月：中央広場ゾーン、宿泊ゾーン等の第一期開園（供用面積約 80ha）
- 平成 12（2000）年 4 月：北口園路・総合センターの追加開園（供用面積約 96ha）
- 平成 14（2002）年 4 月：自然生態園の追加開園（供用面積約 111ha）
- 平成 17（2005）年 3 月：湖畔ゾーンの満濃池展望遊歩道の追加開園（供用面積約 112ha）
- 平成 18（2006）年 12 月：湖畔通り線園路の追加開園（供用面積約 114ha）
- 平成 20（2008）年 3 月：湖畔の森開園で湖畔ゾーン一帯の追加開園（供用面積約 154ha）
- 平成 20（2008）年 4 月：健康ゾーンの全天候型多目的運動場（ドラムドーム）・芝生広場の追加開園（供用面積約 158ha）
- 平成 23（2011）年 4 月：果樹園やドッグラン等の健康ゾーン一帯を追加開園（供用面積約 198ha）

1. 3. 主な供用施設

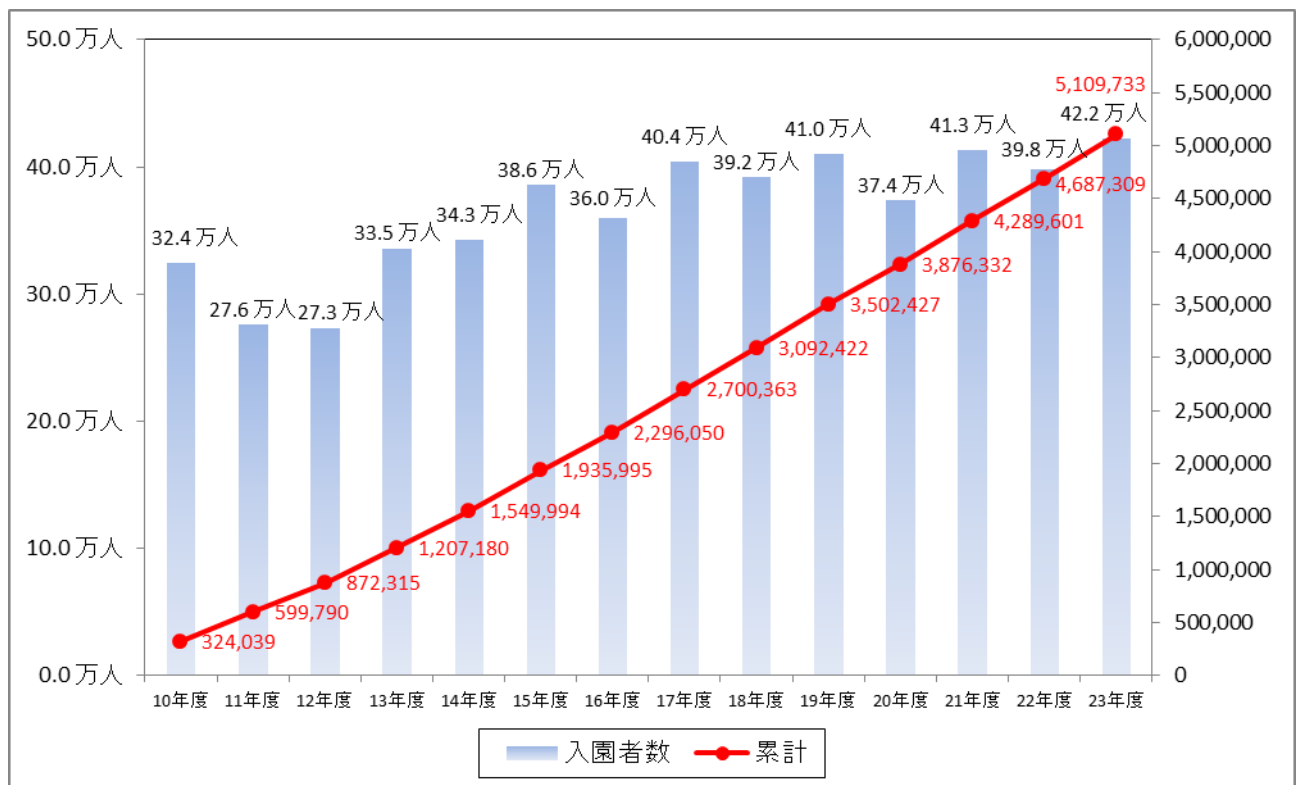
【主な供用施設】

□中央広場ゾーン		
		
<p>芝生広場：周囲を山々に囲まれ、穏やかな讃岐の風土を表現しています。</p>	<p>昇竜の滝：石組みによる高さ 9m の滝は、滝を昇る竜をイメージしています。</p>	<p>まんのう竹風庵：「陶芸」が楽しめる工房と「お茶」を楽しめる茶室があります。</p>
		
<p>竜の子広場：ふわふわドーム等の大型遊具や龍の祠（ほこら）から流れ出る水と親しめるドラムドームの泉広場等、自由な遊び心と創造力を育む場があります。</p>	<p>エクススライダー：最大落差 14m の滑り台を持つ大型複合遊具です。</p>	
□健康ゾーン		
		
<p>ドラムドーム：雨天・炎天時等にも利用できる全天候型多目的運動場です。</p>	<p>健康広場：自然の中に設置された健康器具で、筋力トレーニングやストレッチ等、自分にあった健康づくりを楽しめます。</p>	<p>ドッグラン：リードなしで、愛犬たちが、のびのびと遊べるエリアがあります。</p>

<p>□環境保全ゾーン</p>  <p>満濃池展望遊歩道：満濃池の景色を楽しみながら散策できる全長 400m の木製デッキです。</p>  <p>竜頭の森：春にはオンツツジやヤマザクラが開花し、美しい新緑の中での散策が楽しめます。</p>	<p>□湖畔ゾーン</p>  <p>岬の栈橋：満濃池の景観が間近に堪能できる木製デッキです。</p>
<p>□自然活用ゾーン</p>  <p>自然生態園：讃岐地方の“ため池のある里山”環境を復元したフィールドミュージアムです。</p>  <p>ホッとステイまんのう：最大 106 家族を収容できる四国最大級のオートキャンプ場です。</p>	<p>□宿泊ゾーン</p> 

1. 4. 利用の状況

開園から平成23年度までの入園者数の累計は約511万人であり、平成23年度には42.2万人の方々に利用されています。



【年間来園者数の推移】

2. 平成 28 年度までの整備及び管理運営の方針等

2. 1. 平成 28 年度までの整備・管理運営の重点事項

(1) 基本方針

次の 4 つの基本方針のもとに、整備・管理運営を総合的に実施しています。

- 1) 子供から大人まで四季を通じて多様なレクリエーション活動が行える公園
- 2) 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を活かした四国らしい公園
- 3) 四国地域の人々の日帰り利用を主体とするが、滞在型の利用や四国を訪れる観光客の方々も利用できる公園
- 4) 公園の豊かな自然とのふれあいや様々なレクリエーション活動、イベントを通じて豊かな人間形成に役立つ公園

(2) 整備・管理運営の重点事項

次の 6 つを重点事項として、整備・管理運営を総合的に実施します。

1) 四国を満喫し、笑顔があふれる公園

国営讃岐まんのう公園固有の個性を活かした魅力づくりを行い、当公園ならではの感動を提供します。また、新しい公共、アセットマネジメントによる効率的な運営等の推進や広域防災拠点機能等を担う場とします。

2) 四国中から、日本中から、みんなが集まってくる公園

四国圏から中国・近畿圏にまで至る広域及び多世代に利用される場とします。

3) 体と心をフル活用、遊びも学びも楽しめる公園

個性あるゾーン特性を活かして、若年層を始めとした多世代に、健康・スポーツや自然体験、文化体験等の多様なレクリエーション機会を提供します。

4) 空海の故郷を体感、四国の自然と文化に触れられる公園

満濃池や瀬戸内/讃岐の歴史・文化や風土を活かした四国らしい風景づくりと地域の歴史、文化、自然等の情報を発信します。

5) 地域とともに育ち、地域とつながっていく公園

地域資源を生かした参加体験プログラムを実施するとともに、公園周辺地域の回遊性を高める取り組みを推進します。

6) 市民とともに、美しい花と豊かな緑を守り楽しむ公園

里山文化とふれあう住民との協働による里山づくりにより、希少種保全や自生植物による花修景を育む、讃岐固有の里山環境を再生します。

2. 2. 整備方針

(1) 自然活用ゾーンの整備

□特色

生物多様性を育む自然豊かな四国らしい自然環境の保全・再生とレクリエーション利用の両立を、市民協働により実現していきます。

方針1：四国らしい里山の保全・創出

四国（瀬戸内／讃岐地方）を代表する里山から潜在自然植生まで多種多様な樹林像を保全します。

方針2：生態系保全とレクリエーション利用の両立

重要種の生息や自生種が生育する環境の保全と、里山文化体験や野外レクリエーション活動を実施する場として両立を図ります。

方針3：協働による里山づくり

多様な主体との連携・協働による里山づくりの仕組みを構築します。

□主要施設



(2) 整備スケジュール

自然活用ゾーン（自然生態園は開園済み）は、平成24年度末までに整備を完了させ、公園の全面開園を目指します。

(3) 特に配慮し、積極的に広報展開を図るべき事項

讃岐らしい里山再生を目指して、地域ボランティア等の多様な主体との協働による公園整備を進めるため、市民参加の促進に向けた広報展開を図ります。

2. 3. 管理運営方針

以下の施策について重点的に取り組みます。

(1) まんのう公園ならではの魅力の増進

1) 公園の魅力を構成する要素のポテンシャルの向上

季節の花修景や多彩なイベント、自然や里山文化が体験できる各種プログラム、従業員のホスピタリティ等、当公園の魅力を構成する要素のポテンシャルを向上させ、来園者の増大を図ります。

2) 公園ならびに周辺地域に関する情報発信の強化

公園ホームページの更新回数の増大やマスコミ等への情報提供等を通じて、花の見頃、イベント開催予定といった当公園に関する情報を発信するとともに、地域に関する情報の発信に努めます。

3) 周辺施設との連携強化

公園周辺に存在する魅力ある施設と連携し、情報の相互提供や、新たな体験メニューの開発等を積極的に推進し、相乗効果による利用者増加を目指します。

(2) 四国らしい里山の保全・創出

参加型の公園管理を推進し、当公園の大きな魅力である里山の自然環境の整備・充実を目指します。

(3) 効率的な施設の補修・更新

利用状況や施設の重要度等の施設特性を踏まえて損傷等が発生した後に対策を行う「事後的管理（更新）」と施設の長寿命化を図る「予防保全的管理（補修）」を適切に使い分けることにより、効率的な維持管理・更新を行うと共に、利用される全ての人にやさしい公園を目指し、施設のユニバーサルデザインに配慮します。

(4) 広域防災拠点機能の強化

東南海・南海地震等の災害発生において、広域防災拠点として、後方支援の拠点機能や代替機能を持たせるため、広域防災拠点に求められる機能の補充・補強を図ります。また、施設やライフラインの利用可否情報等の提供体制を整備すると共に、他の広域防災拠点等との連携強化や役割分担を明確にしていきます。

2. 4. 事業効果

(1) 自然・里山環境とのふれあいの場を提供

豊かな自然の中での散策、自然観察会や樹林整備を通じた体験プログラムが増加するなど、自然環境と触れ合える機会が増加します。

(2) 地域固有の環境・文化の維持と保全

讃岐特有の自然植生や生態系の維持、貴重動植物の保護、讃岐ならではの里山の再生・継承に寄与します。

(3) 入園者数の増加

自然活用ゾーンの開園により、公園に新たな魅力が付加し、入園者数の増加が見込めます。

(4) 地域活性化

自然環境を活かしたイベントや地域との共催によるイベントの開催により、地域の活性化に寄与します。

なお、本プログラムは、社会情勢の変化などを踏まえ、随時見直しをしていく予定です。